

大江山

No.23号

発行人：熊倉宗衛

新潟市江南区細山401

平成 29 年 3 月発行

主な活動

四月～大江山地域の茶の間

(大江山荘・大渕荘で隔月に開催)

大江山地区あいさつ運動の実施

六月 広報誌第二十一号の発行

八月 区長懇談会の開催

九月 大江山地区あいさつ運動の実施

十月 合同防災訓練の実施

大江山縄文市の開催

お早う朝ごはん料理講習会 & ミニ講話の開催

広報誌第二十二号の発行

十一月 大江山文化とスポーツの祭典

十二月・一月お茶の間(餅つき)

二月・三月大江山のお茶の間

水都家艶笑の落語口演

三月 横越島と大江山地区の講演会

広報誌第二十三号の発行

大江山地域 学習会の紹介

大江山地域学習会は、大江山のことをもっと知りたい・学びたい、こんな思いをもった人たちが集まって、昨年の一月に設立された会です。

現在、会員は三十三名で、月一回、第二土曜日の午後集まり、大江山の歴史や文化等を、講師を招いてお話を聞きしたり、館外研修を行ったりして楽しく学んでいます。

二十八年度の活動内容を紹介したいと思います。

二月は、酒井和男氏をお招きして、「大江山の遺跡」について学びました。三月は、公民館との連携事業で、金森敦子氏から「大江山の歴史」の講演をしていただきました。

四月 沢海地区の街歩き

五月 江口地内の街歩き

六月～十一月

杉山節子氏を講師に迎え、大江山の歴史の学習や茗荷谷地区の街歩きを行い、三月には公民館との連携事業

業の「横越島と大江山地区」と題と講演会を行ったところです。

二十九年度も講師を招いての講演や街歩き等の内容で活動を行う予定です。

年会費は千円です。ぜひ、みなさんも一緒に学んでみませんか。

今後、大江山地域学習会では、昔の写真や地域の記録を残していく活動も行っていく予定です。昔の写真や古文書等の記録をデータとして提供できる方がおられましたら、事務局や会員にお知らせいただくとありがたいです。

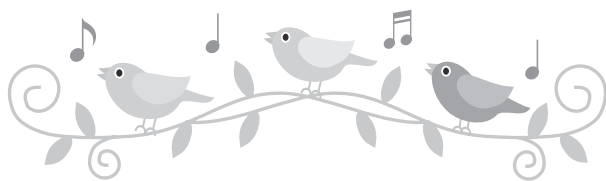
(文責 事務局 田村智江)



大江山文化祭

十一月三日文化の日に大江山環境改善センターで大江山地区「文化とスポーツの祭典」が開催されました。絵や写真、生け花等の展示やホールでは抹茶の接待、健康相談等が行われました。

また、体育館では、大正琴、コーラス、ハワイアン等の歌や踊りが演じられました。保育園の幼児も歌や踊りを披露いたしました。



地域のお茶の間 (丸山公会堂)

十二月十七日(土)に丸山公会堂で餅つき大会が開催されました。



○ 地域のお茶の間 ○
 (大洲荘)

一月二十一日(土)に大洲荘で餅つき大会が行われました。白や杵を使った餅つきは珍しく、子供たちは目を輝かせて参加していました。



つきあがった餅、あんこ餅ときなこ餅をトン汁とともに皆さんおいしく食べていました。



お茶の間での落語等 (大江山荘)

大江山の 芸術家の紹介

大江山出身の芸術家として、越佐書画名鑑（新潟県美術商組合）に掲載されている日本画、洋画、書の中で、日本画の神林玉葉（江口三百地）や和田大明（北山）が紹介されている。大明は明治二十六年（1893）北山に生まれ、名は留次といった。大坪正義から土佐絵を学び小林古径に師事し、特に鯉を多く描いた。

（前述の名鑑から抜粋）盆栽を趣味として書画骨董の鑑識眼を有した。又、座談の上手な人で、酒豪でなかったが酒が好きで、酔うほどに気炎があがった。号としては、「義起」「北山」「大義自明」「大明」などがある。画題は、鯉主として鮎、富士、松などの山水、梅桜竹等の花樹、鳥や犬猫などの動物あるいは歴史画と幅広い。近郷に保存されている作品は「大明」が多い。昭和二十八年に心臓麻痺で突然の死去となった。（「新潟県文人研究」郷土の日本画家 和田大明について 著者 和田和之 より抜粋）



（留次 シャモ 個人蔵）



（大明 鯉 個人蔵）

編集後記

・今回の広報誌の発行は二十八年度三回目となりました。

今後は発行回数を増やし地域の行事等も含めコミ協の活動や地域でうずもれている資料・写真などを発掘しながら掲載し、さらなる誌面の充実に努めたいと考えております。

・今年で十一回目となる江南区ふれあい・ささえあい交流事業の開催が予定されています。

日時 四月二十三日（日）午前十時から午後二時まで

場所 亀田駅前地域交流センター会場及び亀田駅周辺

内容 かざぐるま、プラバン、ちぎり絵、施設製品販売、スタンプラリー等盛りだくさん

・大江山地区コミュニティ協議会の活動も会員・地域の皆様のご協力により予定されていた事業が計画通り完了いたしました。感謝申し上げます。

（文責 会長 熊倉宗衛）